

● 6月29日(木) 山荘を出て新冠に戻る 晴

- ・今朝も静かに明けた。すばらしい環境のすばらしい山荘だ。
結局昨夜の宿泊者は一昨夜と同じ3人だった。
札幌の方と大分の方は6時前に下山していった。

・私は一人しばらくの間静寂に包まれた山荘の前でボーっとして座っていた。俗世界の全ての煩わしさから解放されて、ずっとこのまま座っていたい気に駆られるすばらしいひと時だった。



- ・そうはいつでもここにずっと留まるわけにはいかず、6時過ぎに山荘の入口のドアを閉めて下山の途についた。

・これから20km近くもある長い長い道のりだ。食料が減ったとはいえ背中の中の荷物はずしんと身体にのしかかる。昨日までの疲労も溜まっているのか、下り道だからもっと早く歩けるかと思いきや、一昨日入山した時と時間的にあまりペースが変わらない。
天気はうす曇り。それでも風が無いので暑い。でも太陽の強い陽ざしが無い分楽だ。

○歩きながら考えた

「今日背負っているザックは食料や水がほとんど無くなったので軽くなったはず、そのうえ下り道で楽なはずなのにめっちゃつらいぞ！ 一昨日はあんなに重い荷物を背負って、おまけに荷物の何かが腰に当たって痛いのでタオルを当てたりマットを当てたりし、よくもこんなに長い林道を歩いたものだ。今回は、幌尻岳へ登ろうとした気力と体力が凄かったな。再度登ろうと云われてももう無理だな」と。

・今日はどういうわけか「いこい橋」のゲートが開いていたので、ザックをゲートの下から押し込んで、我が身はゲートの回転ドアから身体をくねらせて抜け出すという苦勞をすることなく、ザックを背負ったまますんなりと通過出来たので楽だった。

12時前にゲート・イドンナップ山荘に辿りついた。

・ここにたどり着くまでに、途中で入山者2人とすれ違った。今夜泊まるのはこの2人だけだ。昨日入山者は無かったので、結局この3日間で幌尻岳に入山したのは私を含めて5人だけ、それも全て男性の単独行だった。やはり厳しい山なんだなと思った。



- ・イドンナップ山荘前の広場では、 広い庭に私の車が一台ポツンと止まって、寂しそうに私の帰りを待っていた。 思いザックを下ろし「やれやれやっと着いたぞ」 まずお湯を沸かしてからザックの中をゴソゴソ覗いて 「赤いきつね」のカップを取り出し、腹ごしらえ。 これがまた旨い！ 誰もいないのでこの空間を一人占め、 コーヒーを入れてのんびり、ゆっくり休んだ。

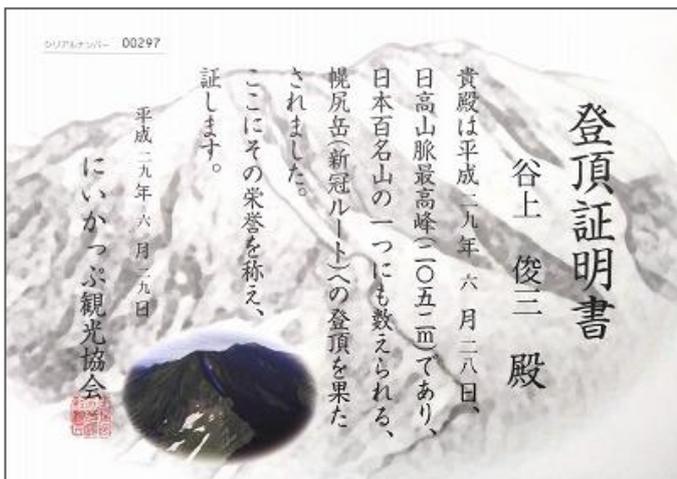


- ・今日は新冠の「ふかふか亭」に宿泊予約を入れてあるのでゆっくりできる。 13時半にイドンナップ山荘前を出て新冠へ向かった。いやあ！長い林道だ。一昨日こんなに長い林道を走って入山したなんて全く記憶が無い。朝が早かったし、イドンナップのゲートまで早く着きたい一心だったので、長いなんていう感覚が無かったのだろう。

- ・乾いた砂利道の林道を砂埃をまきあげてひたすら走る。幸いにも対向車が全くいない。この時間にイドンナップ山荘に着いて、すぐに幌尻山荘に向けて歩いて山荘に着く前に日が暮れてしまうし、明朝幌尻山荘に向かうには今着いても早すぎるので、ちょうど入山する車が無い時間帯なのだろう。長い林道を快調に飛ばし3時前にふかふか亭に着いた。車は砂埃まみれだ。



- ・無事登頂して帰還したと挨拶をし、2階の部屋へ案内された。2人部屋だが今日は私一人で使えるらしい。とにかく風呂へ入りたい。荷物を置いたらすぐ飛び出して レコードの湯へ向かった。 まだ日は高いし太陽の陽ざしが 暑い。



風呂へ行く途中で、道の駅にある「観光協会」へ寄った。目的は「登頂証明書」をいただくため。

明日でもいいのだが、ちょうど風呂へ行く途中に「観光協会」があったから寄ってみた。入山前の26日にタブレットから必死で送信した登山予定の「事前登録」が無事着信していて、すぐ登頂証明書を発行してくれた。発行手数料1000円だが、幌尻岳登頂バッジもいただいた。

今年は幌尻岳の登頂を目的に来たので、大願成就ということだ。良い記念になった。

・日帰り温泉「レコードの湯」は新冠温泉・ホテルヒルズの施設で高台にあり、風呂からは太平洋を眼下に見下ろし、夕陽が沈むのを見ながら入浴できるのが売り物らしいが、夕陽が沈むまで待てないので明るいうちに出てきたが、きれいで展望はすばらしいし、すいているし、のんびりゆっくり幌尻岳の疲れを癒すことが出来た。極楽極楽。



・5時前に「ふかふか亭」に戻ると、土浦ナンバーの車でおじさん一人、レンタカー1台で3人のおじさま方が来ていた。今夜はこの4人と私を入れて5人が宿泊するらしい。私が2階の部屋へ入ると入れ違いで4人はふかふか亭のご主人の車で送られてレコードの湯へ出かけて行った。1階の調理場では奥様が夕食の支度をして良い匂いを漂わせていた。

私は2階の私の部屋でパソコンに今日までの幌尻岳の写真を取り込み整理していた。

・皆さん6時半過ぎに帰ってきて、7時過ぎから1階の食堂で夕食が始まった。奥様お手製のビーフシチューのご馳走だ。
なかなか美味い！サッポロクラシックを2缶も空けた。



・レンタカーの3人は神奈川からのお客さん。土浦のおじさんも皆さん明日幌尻山荘へ入り、明後日に幌尻岳に登るといふ。食事をしながら、ふかふか亭のご主人（山田さん）からルートの説明があり、それに加えて私が行ってきた詳細情報を説明した。

「山荘を出てすぐの岩場のトラバースは岩が脆くて危ない、雪渓には雪が多量に残っているが、腐っているのでアイゼンが全然効かない、急斜面のため雪渓の上は滑落の危険で歩けないので、雪渓の横の草付きを登った、渡渉のところは水量が少ないので全く問題ない」などなど
詳細な情報を提供してあげた。

その他色々な山の談義に花が咲き楽しい夕食だった。

一期一会・9時過ぎに食事を終えたが、皆さんのお名前、もちろん住所など何も確認することなく各部屋へ戻って行った。

疲れた身体にビールが効いて、美味しいビーフシチューで腹が満たされ、幌尻岳へ無事登って来た達成感に浸って、幸せな気分ですべての疲れを癒して、深い眠りに落ちて行った。